

Research on Accounting Comparability, Earnings Management, and IFRS: Evidence from ASEAN Countries

イエニ, ジャヌアルシー

<https://hdl.handle.net/2324/5068159>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (経済学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名	Yeni Januarsi			
論 文 名	Research on Accounting Comparability, Earnings Management, and IFRS: Evidence from ASEAN Countries (ASEAN 諸国における会計情報の比較可能性、利益操作、および国際財務報告基準に関する研究)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	葉 聰明
	副 査	九州大学	教授	内田 交謹
	副 査	九州大学	准教授	潮崎 智美

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

申請者の学位請求論文は、ASEAN における会計情報の質に関する決定要因と影響についての3つの研究から構成されており、特に国際財務報告基準(IFRS)導入と会計情報の比較可能性を中心に実証研究を行っている。

第1章では、本論文の問題意識や関連する先行研究をレビューするとともに、ASEAN 主要国の会計制度や法律体系について簡潔に説明する。

第2章の研究は、会計情報の比較可能性を左右する制度的要因について検証したものである。ASEAN の5か国を対象に、会計情報の比較可能性を決定づける法的要因と法以外の要因を検証した。その結果、法的要因の中では、投資家保護の強さと監査・財務報告のエンフォースメントの厳格さが、法以外の要因では、納税遵守度とメディア普及度が大きな役割を及ぼしていることが分かった。これらの結果は会計情報の比較可能性を改善させるうえで重要な示唆を与えている。

第3章の研究では、会計情報の比較可能性が企業行動に与える影響について検証している。欧米の先行研究では、会計情報の比較可能性が高くなるにつれ、経営者は会計的裁量行動 (AEM) を控え、そのかわり実体的裁量行動 (REM) を増加させることが報告されている (=代替仮説)。その他の発展途上国の研究では、両方を抑制させる (=補完仮説)、あるいは AEM のみを抑制することが報告されている。ASEAN を対象に検証した本研究の結果は代替仮説を支持している。ASEAN における企業の利益調整選択を明らかにしたことが本研究の大きな貢献である。

第4章の研究は、ASEAN における IFRS の採用が企業の投資家に及ぼした影響に関するものである。海外からの投資を含めた企業の合併買収 (M&A) に焦点を当てて、買収プレミアムがどのように変化するかについて実証研究を行った。IFRS の採用後、ターゲット企業への買収プレミアムがより高くなる仮説と、それが減少する仮説の両方が考えられる。データが入手可能な3か国を対象に実証分析を行った結果、IFRS の採用後、財務情報の比較可能性が高まり、投資家の認知したリスクの軽減につながる結果、買収プレミアムがより高くなるという仮説を支持している。

本論文は、これまで研究が乏しかった、ASEAN における会計情報の比較可能性に関する研究と、IFRS が M&A のプレミアムに与える影響に関する研究を行い、当該分野に新たなエビデンスを提示した。それらの結果は政策的な示唆を有するものと認められる。よって論本論文調査会は、Yeni Januarsi 氏より提出された論文「Research on Accounting Comparability, Earnings Management, and IFRS: Evidence from ASEAN Countries」を博士 (経済学) の学位を授与するに値するものと認める。